



物理を学びたいと思い物理学科を志望している女子高生ですが、親にものすごく反対されています。

「物理学科で学んで、そのあとどうするの？」と親に聞かれると、言葉につまってしまいます。

私は宇宙などが好きで、もっと知りたいって思っているだけだからです。

親は阪大理学部を志望校にすることさえ許してくれません。どうすればいいですか？



「物理学専攻の男性の教授からの回答」

ご両親はあなたの将来を心配してご意見を言っているのであって、あなたを苦しめよう(ハラスメント)と思っているわけではないことを、まずは忘れないようにしてください。

また「宇宙などが好きで、もっと知りたいって思っているだけ」なのは、理学にとってはきわめて健全な動機です。

理学の進歩は、設定された最終的具体的目標に向かって活動することによるのではなくその都度心に生じる自然な感情(好奇心)に駆動されているからです。

「物理学専攻の女性の教授からの回答」

まず、理系の学部には女子学生が少ない、というのは事実です。阪大理学部の物理で言えば、およそ全学生数の1割程度です。

化学や生物では、もう少し女子学生の割合は多いと思います。

理学部や工学部の学生は、卒業すると男女を問わずほとんど全員大学院に進学します。

修士課程2年間を終えると、3割くらいが博士課程(3年)に進学し、残りは企業などに就職します。この段階で、女性だからといって就職率が悪いということはありません。

今は男女雇用均等法がありますし、大企業は皆女性技術者(研究者)を男性と等しく扱ってくれます。

もちろん、結婚や出産を機に退職する女性も多いですが、子供を育てながら研究や仕事を続けている女性も大勢います。

また大学院を修了した後、国立研究所や大学の研究職につく人もある程度の割合あります。

すぐに常勤ポストにつけない場合、非常勤の研究職を何年か勤める人も少なくありません。物理で博士号を取得した人達の就職率の低さは、確かに社会問題になっている、といつてもいいかもしれません、これは本人がどれくらい柔軟に社会に対応できるかという問題であり、決して本当の意味で就職できないわけではないのです。

まだ、高校生のあなたには、学部4年間プラス大学院5年間の後の生活など、今想像できないでしょうからこの話はここでやめます。

もし、大学4年間の後に企業に就職しようと思うのであれば、物理だろうが文学部だろうが、同じです。就職率が高いか否かは、その時の世の中の景気次第ですが、物理だから低いということは決してありません。むしろ理系のほうが、「手に職がある」という意味で有利だと思います。

大学院卒業者についても同じです。女性であるから就職できない、などということは決してありません。

もし一生研究を続けたいと希望される場合は、少し状況が違います。

大学の助手ポストを得るのは、男性でもかなりの狭き門だからです。

ここで女性が不利になることがないかと言われれば、正直に「現実は多分目に見えない壁がある」と言わざるをえません。

でもこのような問題も少しづつ解決されていますので、あなたがそのような道の前に立つであろう10年後くらいには、きっと「女性だとむしろ有利だ」という世の中になっているのではないか、と思います。

そもそも、大学で勉強するのは何のためなのか、ということをよく考えてください。

大学は就職するための職業訓練所ではありません。また就職のときに役立つ「ブランド」を手に入れるために大学に入るわけでもありません。

知の欲求を満たすための学問をするところが、大学ではないでしょうか。それならば、卒業した後の人生設計ができていなくても構わないかもしれません。

むしろ卒業後の人生設計が高校生で既にできている方がおかしい、くらいです。

あなたが真剣に物理を勉強したい、と思うなら、ご両親にその思いを伝えてみたらいかがでしょう。

学校の物理の先生にお願いして、ご両親を説得してもらうのも一つの手かもしれません。

もう一度、答えを申し上げます。阪大理学部の卒業生は就職に困るようなことはありません。

女子学生だからといって就職できないこともあります。

大学卒業後の進路については男女を問わず企業に就職する人の割合のほうが多いですが、大学などに残って研究職につく人も多いのは理学部の特色かもしれません。